

来月から 工用道路に着手

国交省琵琶湖
河川事務所 天ダム再開発事業で

宇治市議会の建設水道常任委員会(中路初音委員長)が25日に開かれ、天ヶ瀬ダム再開発事業に伴う工用道路の整備に関して市が報告した。

国交省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所が宇治川左岸の天ヶ瀬吊橋から下流約480m区間で計画しているもの。工用道路として市道山王仙郷谷線を整備することにしており、景

観を考慮して現況を極力改変せずに必要最低限の機能を確保する方針で、擁壁や張出歩道を設ける。

まず来月中旬から来年3月末までの工期で、既設側溝の修繕工事に着手する。来年度に入ってから擁壁工・張出歩道工を行う予定。工事期間中は最低限、片側交互通行を確保するが、工事内容によっては通行止めとあることもあるという。

なお、天ヶ瀬ダムの放流能力をアップさせるトンネル式放流設備の整備は12年度から4年間を予定。工用道路は、この工事に使用するもので、事業完了後の15年度には張出歩道については撤去する。

水谷修委員(共産)は志津川区の低周波の影響を聞き、大関理事は「模型調査で、やはり影響があることがわかった。新しいトンネルの影響、その軽減策について国が検討されている」と説明した。